# 本草圖譜

穀部

四十八

特7
19
230



国立国会図書館　タイトル『本草図譜』 請求記号 特7-230

ガラス使用

# 本草圖譜

237-230

本草圖譜卷之四十二目錄

穀部


| | | | |
|---|---|---|---|
| 苟草 | ゑつくさぎ | 二 | 蒴草 |
| 薏苡仁 | とうもき | 四 | 一種 |
| 一種 | おほあわぐま | | 罌子粟 |
| 一種 | 單瓣かうあつて白色のもの | 八 | 一種 |
| 一種 | 千葉かうあつて白色紅邊のもの | | 一種 |
| 一種 | 單瓣かうあつて白色紅邊のもの | 九 | 一種 |
| 蒴草 | とうがうさぎ | 三 | 一種 |
| 一種 | すしぐつま | 五 | 罌子粟 |
| 罌子粟 | けし | 七 | 一種 |
| 一種 | 千葉かうあつて白色のもの | | 一種 |
| 一種 | 單瓣かうあつて白色紅邊のもの | | 一種 |
| 一種 | 單瓣圓かつて紅色白邊のもの | | 一種 |




塙田文庫

国立国会図書館 タイトル『本草図譜』 請求記号 特7-230
ガラス使用

一種　單瓣圓ハセ白色　紅邊のもの　十
一種　單瓣ゝゝうありて　紅色淡紅邊の物　十一
一種　單瓣圓ハセ紫色　紅邊のもの　十二
一種　千葉ゝゝうありて　紫色紅邊のもの
一種　千葉ゝゝうありて　紫色淡紫邊の物
阿芙蓉　けしのやみ　十三
一種　物印忙の圖三種　十五
一種　單瓣圓ハセ紅色　淡紅邊のもの
一種　千葉ゝゝうありて　紅色淡紅邊の物
一種　單瓣ゝゝうありて　紫色紅邊の物
一種　單瓣ゝゝうありて　紫色淡紫邊の物
一種　單瓣圓ハセ紫色　淡紫邊のもの
麗春花　ゑんけし　千葉紅白雜色三種　十四


# 本草圖譜卷之四十三

東都　岩崎常正　著

穀部



国立国会図書館　タイトル『本草図譜』　請求記号　特7-230
ガラス使用

茵草　みのこめ　まつたまき　たるまき

一名薑 通雅　薊荊 同上　茵米 証類本草

守田 爾雅

溝側或ハ田地ニ生ル宿根枯すして春早く葉を生ル形細長ニして看麥娘ありの如く莖を抽きて數寸或ハ一二尺葉互生ル楕ニ長き穗をなし枝ありて直立し圓く扁なる小子多く重り著く初夏熟して白く落て自生し村民子を採りて糊となし又屠者子実を採り飯となし食ス獸肉の毒ニ中り發熱するを解す故あつたまき等の名あり皇守田爾雅の鄭注ニ即童粱也一種米得二數粒一而易二墜落一明年復生故謂二之守田一とかく

本草圖譜　巻之四十三　三　灌園閣蔵

# 蒒草

こうばうむぎ　ちまむぎ　ふでくさ

すなまきつる　仙臺　マサツケ　北蝦夷　ルウタウシムリ　東蝦夷

海濱の砂地に多し奥州又相州七里濱の産は大葉多し葉は莎草に似て闊大にして厚く深緑色又かんすげに似て短し夏月葉の中より穂を抽ずる事四五寸形筆の如く黄蘂あり後実を結ぶ小麦の如し根黄褐色の鬚ありて土中を延ぶ又一種河邊に生るものは葉窄く香附子の葉に似て厚く深緑色光澤あり花実同し

薏苡仁　とうむき　とうせんむき　あこうむき　防州

シントヨブスタラーン　羅甸　ラクレイマヨビ　和蘭

噎珠　本草和名引食經　感米　千金方　回々米　枚荒本草

本邦の古へ薏苡仁の渡さる時川穀を以て充つ真の物は享保年中初て渡る藥用又食料とすれ故に今は藥鋪に賣所のものは川穀なり真の薏苡仁は蜀黍に似て狹く川穀に似て淺綠色互生し秋高さ四五尺枝葉を分ち其間より花実を生じ其実大さ三分許り壺の如く下圓にして上に口あり殼竪に條理あり揉い殼去て仁残る其仁に褐色の薄皮あり肉白色にして麥に似たり味ひ淡甘し炊て飯とすべし

一種　ずんだま　和名鈔　ずんだま　新校正　ずんごだま　江戸

ずんご　東國　ひちこく　上総　菩蔞珠　秘傳花鏡

川穀　枚荒本草

荒野に稀に自生し又人家にも栽ゆ春月実より生じ葉は薏苡仁に似て硬く深綠色秋月高さ四五尺枝葉を分ち花あり玉蜀黍に似て短し其花の下に子を生じ貝子の一種とみなすいる似たり薏苡仁より大にして熟すれば紫褐色の斑あり殼甚硬く碎へからん中に一の竅あり線を串て念珠とすべし殼中の仁あり形薏苡仁に似て畧黒色を帯て硬し是蘓頌薏苡所在有之春生苗莖高さ三四尺葉如黍葉開江白花作穗五六月結実青白色形如珠子而稍長故人呼為薏珠子小児多以線穿如貫珠為戯とし時珍一種圓而殼厚堅硬者即菩提子也其米即粳糲也但可穿作念經数珠故人亦呼為念珠と云物なり



国立国会図書館　タイトル『本草図譜』　請求記号 特7-230
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』 請求記号 特7-230
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』　請求記号 特7-230

ガラス使用

一種　おにおもつだま

形状川穀を二三子一に合せたる如くにして菊飯あり相州大山邊にて川穀の親うまとなす是集解に弘景出交趾者子最大彼土呼為幹珠故馬援在交趾餌之載還為種人讒以為珍珠也実重累者為良取仁用とて又雷斅の説に凡使勿用糯米顆大無味時人呼為粳糯是也と云ものなり釋名に蘋米とあり

罌子粟　けし　スラープコロイト荷蘭　ヘウル同上

象穀　詔興備急本草

鶯粟　虞物新志

秋月種を下して生し冬を経て凋まれ莖高さ四五尺葉は蒿苣やうに似て花文ありて粉緑色三四月莖を抽て互生し梢の頭或は葉の間より枝を分ち莖の上に青き苞を結び下垂し漸く花開んとして上を仰き苞脱し花を開く四瓣にして中心黄蘂あり單瓣の物は朝に開きて夕に蘂瓣共に脱落し千瓣の物は二三日を経て脱落す後日を経て実大なり殻の項き菊花の如し内に小子多しあり其子白花は白色紅紫花は黒色なり



国立国会図書館　タイトル『本草図譜』　請求記号 特7-230
ガラス使用

一種
單瓣鋸齒
あるて白色
のまり
一種
千葉鋸齒
あるて白色
のまり



国立国会図書館　タイトル『本草図譜』 請求記号 特7-230
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』 請求記号 特7-230
ガラス使用

一種

單瓣圓ひて紅色白邊の物まゝ千葉のあり



一種

單瓣圓ひて白色紅邊のもの

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』 請求記号 特7-230
ガラス使用

一種

單瓣鋸齒ありて紅色淺紅邊のもの

一種

單瓣圓ありて紅色淺紅邊のもの

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』 請求記号 特7-230

ガラス使用

一種

單瓣圓
ひとへ
ちて紫
しらくそうて
色紅邊
の物まて
千葉も
あり

一種

千葉鋸齒
ちりて紅色
淡紅邊の
をり

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』 請求記号 特7-230
ガラス使用

一種
單瓣鋸齒
あつて紫色
紅邊の物
一種
千葉鋸齒
あつて紫色
紅邊のとり

一種
千葉鋸齒あつて
紫色淡紫邊の物
一種
單瓣鋸齒あつて
紫色淡紫邊
のとり

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』 請求記号 特7-230
ガラス使用

一種

單瓣圓ムセ
紫色淡紫邊
のもの

阿芙蓉　けしのやま　阿片　谷通

あへんを採るゝ先つ白色の物を
擇ぶべし花紅或ハ紫なるものを
花けしと云此類ハ津
液出ること少し花の末
脫落さる殼の小く軟
き時日中ふ手を以て
花瓣を採り去り針
或ハ小刀にて外皮より膜の所を刺し白
き乳汁の如き物流れ滴るを竹刀を
以て刮り收むべし脚葉を去れハ汁出
ること多し舶來の物ハ恐らハ古今醫
統の說の如く殼を搗爛し汁をとり
煮て五倍子の末を調和しくる物なる
べし宜く擇ぶべし

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』　請求記号 特7-230
ガラス使用

麗春花　時珍

ひなげし

舞草　名物方言

百般嬌　秘傳花鏡

胡蝶滿園春　汝南圃史

苗葉罌子粟に似て小にて微し白き毛あり花單瓣千瓣花色一ならず紅の千瓣花も多し莖高さ一尺餘四月花あり實又小なり花汝南圃史の虞美人草なり

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』　請求記号 特7-230
ガラス使用

一種　花黄色の物
一種　花白色の物
一種　花紅色の物

国立国会図書館　タイトル『本草図譜』　請求記号　特7-230
ガラス使用

特7
19
230



国立国会図書館　タイトル『本草図譜』 請求記号 特7-230
ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『本草図譜』　請求記号　特7-230

ガラス使用